



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対応の取り組み ～情報発信とオンライン会議システムの活用～

(一財)自治体国際化協会多文化共生部多文化共生課

情報発信について

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に伴い、日本に住む外国人の方への多言語支援等が大きな課題となっています。多文化共生部では、支援等に必要の情報収集を積極的に行い、活用いただける情報などを発信しています。情報量が多く、発信方法についてもまだまだ課題がありますが、多文化共生部で行っている情報発信についてご紹介いたします。

(1) 多文化共生ポータルサイト

多文化共生部では、多文化共生に関する施策立案や情報収集をサポートする目的で「多文化共生ポータルサイト」を運営しています。ポータルサイトでは、平時において、国の施策動向や、地域の先進事例などをご紹介します。

ていますが、この中で、新型コロナウイルス感染症に関するページを2月に設け、情報提供を行うための17言語19種類の多言語テンプレートを公開しました。

また、支援情報の提供については、国の特別定額給付金等の重要な情報や経済的な支援、在留資格について、各団体による多種多言語情報ツール、全国の多言語相談窓口についてなど分野別に情報を整理して掲載しています。掲載にあたり、支援者向けのページの他、外国人が自分の分かる言語で情報を探しやすいよう、英語とやさしい日本語を主体とした外国人向けのガイドページを設けて情報提供しています。

(2) Facebook と Twitter

ポータルサイトでは、情報をストックして困った時に一覧で探せるように整理していますが、多文化共生を支援する行政、協会、団体等がリアルタイムにさまざまな情報を発信しており、すべての情報を支援者、外国人住民に伝え、フォローすることは難しいため、Facebookの多文化共生部公式アカウントで、これらの情報をまとめて発信することを目指しています。

多文化共生ポータルサイト

多文化共生に関する施策立案や情報収集をサポートする

- 「国の情報・法令」「統計情報」
「補助金・助成金表彰制度」
多文化共生の推進に関する施策や法令、多文化共生施策の立案に役立つ統計や事業で利用できる補助金・助成金・表彰制度等の紹介
- 「自治体の情報」「全国の相談窓口」
「地域国際化協会・国際交流協会」
各自治体の多文化共生担当および多文化共生プラン、外国人相談窓口や地域国際化協会および各市区町村の国際交流協会の情報の紹介
- 「多文化共生ツール・サイト」
「国の取組事例」「人材育成・活用」
多文化共生に関するツールや情報収集に役立つサイト、各地の先進的な取り組み、多文化共生の担い手の紹介
- 「CLAIR刊行物」「コラム」
多文化共生に係る調査研究結果やCLAIR刊行物と、多文化共生論の専門家による国内外の多文化共生に関するコラムの掲載
- 「災害時に必要な情報」
災害が発生する可能性がある、発生した、という時にすぐに使える情報の紹介

多文化共生に関する情報収集や施策の立案などにご活用ください！
<http://www.clair.or.jp/tabunka/portal>

問い合わせ
(一般)自治体国際化協会多文化共生部多文化共生課
tabunka@clair.or.jp / 03-5213-1725



多文化共生部・市民国際プラザFacebook トップページ

例えば、医療機関による感染拡大予防方法のチラシや政府からの3つの密についてのチラシを日本語と多言語で投稿するなど、情報発信の際は、すぐにシェアして活用いただけるようにしています。また、特別定額給付金の

申請書様式の多言語での説明など、NGO/NPO 団体などが分かりやすく発信している場合もあり、さまざまな担い手により発信される幅広い情報については、クリアが運営する市民国際プラザの Facebook、Twitter でも発信しています。このような情報を、自治体や地域国際化協会間だけでなく、在住外国人や支援者の方々にシェアしていただくことで、幅広い情報の普及を目指しています。

さらに、多文化共生部では、2020年7月に Twitter を開設しました。Facebook だけでなく Twitter を利用し、Facebook よりも即時性のある情報発信に取り組んでいます。ぜひ多くの方にフォローしていただき、クリアからの情報発信をご活用いただければと思っております。

(3) 情報発信の充実に向けて

多文化共生部では、Facebook、Twitter といった SNS を使って支援者の皆様にお役立ていただける情報をフロー情報として即時性をもって共有するとともに、常に閲覧したい情報については、ポータルサイトにストック情報として整理しています。全国で共有し、活用できる多言語化した情報や先進的な取り組みなど、ぜひ多文化共生部にお寄せください。

平時からの取り組みが災害時や新型コロナウイルス感染症対応など新たな危機への対応にも役立ちます。ぜひ、情報共有の場としてご活用ください。

各ツールへのアクセス

【多文化共生部】

ポータルサイト

<<http://www.clair.or.jp/tabunka/portal/>>

Facebook

<<https://ja-jp.facebook.com/tabunka.clair/>>

Twitter

<https://twitter.com/CLAIR_tabunka>

【市民国際プラザ】

Facebook

<<https://www.facebook.com/Siminkokusaiplaza.janic/>>

Twitter

<https://twitter.com/janic_plaza>

オンライン会議システムを活用した事業展開

多文化共生部が実施する事業についても、新型コロナウイルスの関係で縮小や開催方法を変更して対応せざるを得ない状況となっています。コロナ禍でも支援の歩みを止めないために、3密（密閉・密集・密接）を避けた事業展開として、オンライン会議システムを活用した対応を進めています。



国内研修の様子

(1) 地域国際化協会職員国内研修（事業担当者向け）

地域国際化協会職員国内研修（事業担当者向け）は、これまで、参加者の皆様に東京のクリア本部に集まっていたいただいて開催してきましたが、3密を避ける観点から、今年度は初めてオンライン会議システム「Zoom」を使って実施しました。

zoom

オンライン会議・講座に出席する際の注意事項

①マイクをミュートにしてください。

マイクの絵をクリック

マイクの絵に斜線が入っていれば、大丈夫です。

※会議によっては、最初からミュートになっている場合があります。
※発言する時は、ミュートを解除してください。

操作が難しい場合は、事務局側でも対応できますのでご安心ください。
円滑な運営にご協力をお願いいたします。

②参加者名は、こちらが指定したものにしてください。

③万が一、システムのトラブルなどで会議から離脱してしまったら、自力で戻ってきてください

※入室時と同じアドレス、パスワードで戻れます。
※会議・講座はライブと同じ、止まることなく進んでいきます。
※トラブルから救出する機能は、ZOOMにはありません。自力で、または、周囲のチカラを借りて戻ってきてください。

注意点をまとめた事前配付資料

当日は、全国から100人近くの方にご参加いただき、星槎大学大学院教授 三田地真実様による「オンライン会議システムの基礎・コミュニケーション手法」、株式会社ひとまち代表取締役 ちょんせいこ様による「オンライン会議システムのファシリテーション」と題した講演と、地球っ子グループ・あそび舎てんきりん代表 芳賀洋子様、(公財)岐阜市国際交流協会事務局長 辻賢司様によるオンラインでの生活支援、相談や日本語講座等の事例発表が行われました。

参加者からは、「勉強になった」、「オンラインに対して躊躇していたが、使ってみたくなくなった」、「タイムリーな内容で良かった」、「遠方からでも参加しやすい」といった好意的な意見があった一方、「事前の練習・準備が肝要」、「オンラインのほうが疲れる」、「1日の研修はオンラインだと長すぎる」、「対面で行うことの良さにも気づかされた」という意見もいただき、今後このような



研修運営の様子

研修・会議を主催する際の検討事項となりました。

オンライン会議システムを使用した大規模な講座の開催は初めてだっ

たため、当日は3台のパソコンを使用し、研修環境の確保に努めたほか、事前の案内を強化し、初心者にも参加しやすく、分かりやすい研修となるようこころがけました。

今後も、新型コロナウイルスの影響により、オンラインでのやり取りが続くことが想定され、オンライン会議システムを用いた遠隔での会議や、オンラインでの相談業務などを実施する団体が増えてきています。引き続き、参加者のニーズに沿った研修内容となるよう取り組んでいきます。

(2) 地域国際化推進アドバイザーの派遣

多文化共生や国際協力分野で専門的な知識や経験を有する有識者などを「地域国際化推進アドバイザー」として登録し、多文化共生または国際協力推進のための研修会や講演会などを実施する自治体や地域国際化協会などに対し、申請に基づきアドバイザーを派遣する事業を行っています。当事業について、オンライン会議システムを活用した派遣にも対応していますので、ご希望の場合は事前にご相談ください。すでに、オンライン会議システムを利用した事業実施の申請も受け付けておりますので、当制度をご活用ください。

当事業のHP

<<http://www.clair.or.jp/j/multiculture/jiam/advisor.html>>

～オンライン会議システムを使用した会議や講座の運営に関する Q & A～

Q 当日実施前にやっておくことはありますか？

A 事前に接続テストをする日を設けると良いと思います。当日使用する同じアドレスでログインしていただき、「音声聞こえるか」、「映像は見えるか」等を確認してもらおうと、当日のトラブルが少なく運用できると思います。

Q 当日はどのような準備をするといいですか？

A 規模が大きな会議・講座の場合は、1台ではなく、複数のパソコンを用意し、共同ホスト機能を設定しておく、トラブルがあった際に対応しやすいです。また、事前に「聞こえますか？」などと書いた紙を用意して、音声トラブルの際に画面に提示すると、円滑にコミュニケーションが取れます。

Q 当日の注意点はありますか？

A 参加者は発言する時以外は、マイクをミュートにしてもらうことが重要です。事務室等、周りの音を拾ってしまうと、それが全員に聞こえてしまい、会議を遮ってしまう恐れがあるためです。

また、参加者同士で意見交換をする（ブレイクアウトセッション）機会がある場合は、表示する名前を「ナマエ@団体名」のように指定することをお勧めします。現地開催の会議であれば、名前を呼び間違えても視線等で指名されたことがわかりますが、オンライン会議では名前を間違えて呼ばれてしまうと、自分が呼ばれているのか判断できません。そのため、敢えてカタカナで名前を表示することが望ましいです。

Q ほかにオンライン会議・講義にあたり参加者が知っておくべきことはありますか？

A 何らかのトラブルで会場から退出してしまった場合、自分で戻る必要がある、ということです。一度入室できていれば、その時と同じ手順を踏めば戻ることができます。